



Shin·ei



えにし 縁だより 断熱材の歴史



寒さもひとしお身にしみる頃、今月は工務部の内場智仁が断熱材の歴史についてお話させていただきます。高性能住宅が台頭し1戸当たりの使用量が増えた住宅断熱材。健康で快適な住まいを実現する上で欠かせないアイテムです。そのうち市場シェアの過半近くを占有するのはグラスウール断熱材ですが、起源は1904年頃まで遡ります。チェコで綿状ガラスの試作に成功したのが実用化の始まりとみられています。1908年にはグラスウールの断熱性能が優れていることが発表されました。工業材料としては第一次世界大戦からで、船舶用の断熱材であった石綿の不足により、ヨーロッパでグラスウールが代替品として活用されました。その後2度のオイルショックにより産業界で省エネの意識が芽生え始め、1970年住宅用として初めてのグラスウール断熱材が販売されました。1979年には省エネ法が制定され、住宅の断熱に対する意識は更に高まりを見せ、今や地域を問わず標準的に住宅に用いられるようになりました。今後も、人目につかない場所(壁の中)で裏方に徹しながらも、重要な役割担っていく事でしょう。工務の仕事もどこか通じるものがあります。皆様に温かい住まいを提供できるように日々邁進して参ります。



自由設計
Scene - A

2022

師走

株式会社シンエイ・シンエイリフォーム
兵庫県西宮市小曾根町4丁目5番16号
TEL 0798-47-1661 FAX 0798-48-0354
info@scene-a.com